

都道府県名	石川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	輪島市立河井小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	3	15	22
児童数	50	61	60	50	62	78	5	366	

研究の概要

1. 研究主題

<p>一人一人が輝きを持って心豊かに活動する子 ～個に応じたきめ細かな学習指導の工夫～</p>

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生は、算数科と生活科でT・Tを実施。 ・ 2年生は、生活科で少人数授業、算数科でT・Tを実施。 1年生活科と1・2年算数科は、きめ細かな指導をめざし、T・T授業を実施する。 2年生活科は、学期毎にグループ編成をする。 単元等により、弾力的に少人数授業を導入していく。 ・ 3、4、5、6年生は、算数科で習熟度別少人数授業を実施。 3年算数科は、学期毎にグループ編成し、4・5・6年算数科においては、単元毎にグループ編成をする。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「一人一人が輝きを持って心豊かに活動する子」</p> <p>研究の見通し（仮説） 研究主題の具現化を図るため、算数科を中心に「個に応じたきめ細かな学習指導の工夫」を行うことで基礎学力の向上を目指したいと考えた。研究初年度の取り組みとして、「楽しい授業」を目指すことから始めた。「楽しい」ことがすべての出発点であり、学習意欲の根源であると考えたからである。</p> <p>研究の内容・方法 算数に苦手意識を持ち、学ぶ意欲を持っていない子どもたちの学習意欲を喚起させるための手立てや工夫について、少人数授業やチームティーチング(T・T)で具体的に検証した。</p> <p>研究の成果 少人数授業に関しては、指導者同士の意見交換が増えることにより、個に応じた適切な指導の工夫ができるようになってきたこと、授業での人数が少なくなることにより、のびのびと自己表現できる場面が増えたこと、習熟度別グループ編成にしたため、各児童の理解度を把握しやすく、個々に応じた支援がしやすくなったこと、などが挙げられる。T・T授業に関しては、事前に役割分担をしておくことで、授業中に必要に応じてすばやく対応や情報交換ができるようになったことが挙げられ</p>
--------	---

る。課題は、客観的なデータ検証や授業形態の工夫、教材・教具の工夫と開発、などである。

テーマ

「一人一人が輝きを持って心豊かに活動する子」

研究の見通し(仮説)

研究2年目にあたる本年度は、前年度の成果を継続しながら研究に取り組んでいきたい。

子どもたちの多様な個性は、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を基盤にして、主体的に学ぶことによってはじめて伸ばせるものである。輝きを持って心豊かに活動する児童を育成するために、児童一人一人に応じたきめ細かな学習指導の工夫をし、確実に基礎・基本が身に付くように発達段階に応じた適切な指導を実践していきたい。

また、学力向上のためには、学習指導法の工夫改善のみではなく、豊かな感性の育成や基本的な生活習慣や社会性の育成が同じくらいに大切である。この2項目をバランスよく鍛えることによって、学力が向上するとの仮説を立てた。

研究の内容・方法

「わかる授業」の工夫

児童の実態に即した教材の開発、具体的でわかりやすい目標の設定など、学習意欲を高め、学ぶ喜びや達成感を得る取り組みを展開する。

学習指導法の工夫改善

少人数授業においては、課題別学習・発展的な学習・補充的な学習等の課題や教材の提示の仕方について、実践研究を行う。チームティーチング(T・T)においては、一斉指導・個別指導・グループ指導など様々な学習形態について、実践研究を行う。

また、少人数授業とチームティーチング(T・T)について、年間指導計画や単元計画、評価規準を作成する。学習到達目標を達成したかどうかと、学習場面の適応性を調べることで児童の学習状況を把握し、支援・評価の方法について、研究を深める。

豊かな感性を育てる教科の充実

学力向上を目指すためには、まずその基盤として精神的な安定が必要であろう。児童が精神的な安定を身につけていくためには、一方向からの援助ではなく多方向からの援助が必要で、その援助一つ一つが具体的であったほうが、児童は学習しやすい。

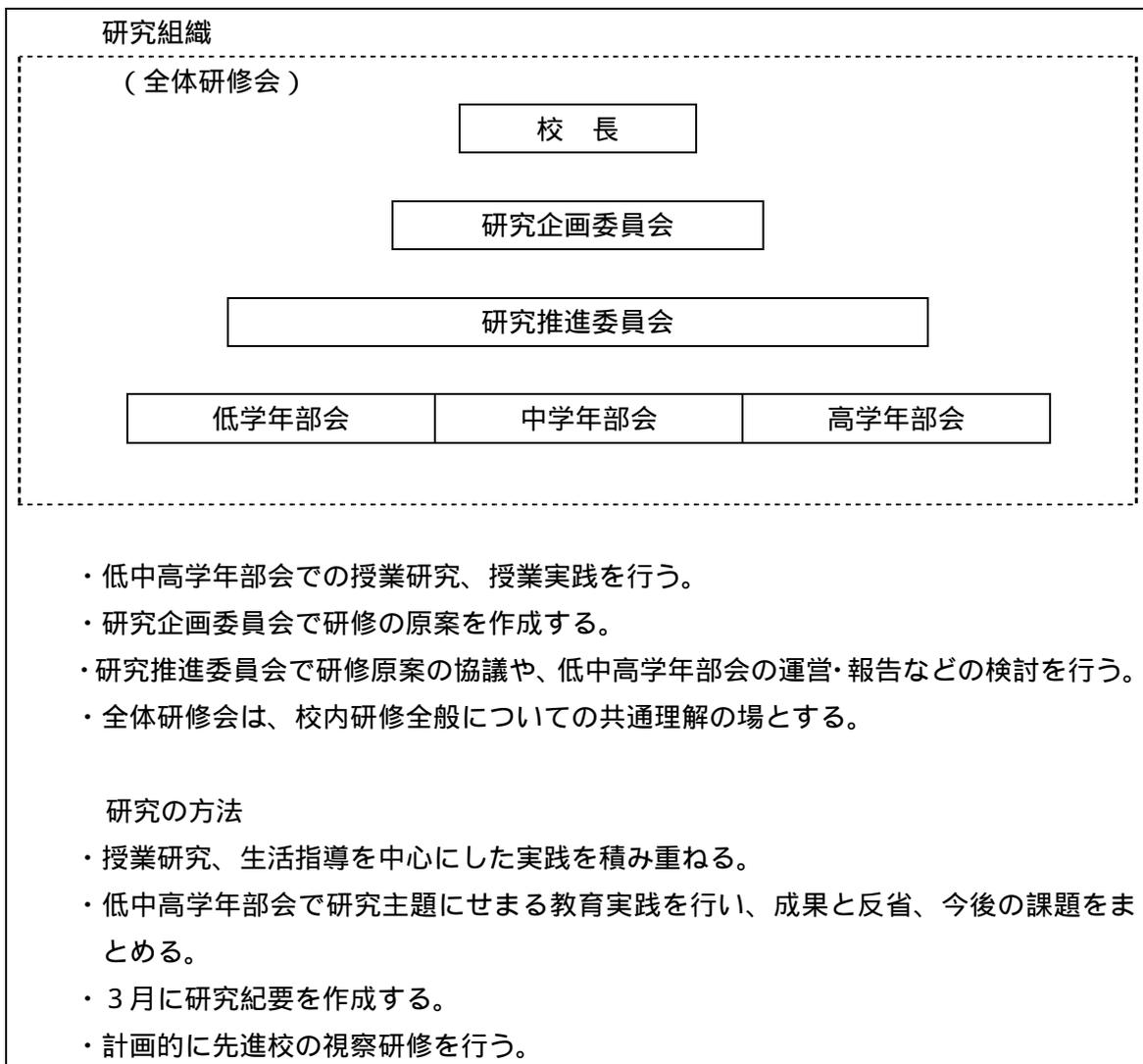
その1つの手立てとして、豊かな感性の育成が挙げられる。豊かな感性を身につけるためには、各教科・総合的な学習の時間でそれぞれのせまり方があるが、中でも音楽科、図工科、体育科などの教科の活用が有効である。それぞれの教科の本質を意識して、他教科との融合を図り、児童の豊かな感性の育成に努める。

生活指導や道徳の充実

児童がまず安全に安心して学校生活を送ることができるように、基本的な生活

	<p>習慣の育成や社会性の育成に努める。</p> <p>研究の成果や課題の普及に積極的に努める。</p>
平成16年度	<p>テーマ</p> <p>「一人一人が輝きを持って心豊かに活動する子」</p> <p>研究の見通し</p> <p>研究3年目にあたる平成16年度は、平成14、15年度の成果を継続しながら研究に取り組んでいきたい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>「わかる授業」の工夫</p> <p>学習指導法の工夫改善</p> <p>豊かな感性を育てる教科の充実</p> <p>生活指導や道徳の充実</p> <p>研究の成果や課題の普及に積極的に努める。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

【一学期】

一学期は、学習指導法について具体的な話し合いができた。少人数授業について、各コースの具体的な内容が見えてきて、2学期への具体的な方向性(じっくりコースは、一学期のやり方を継承する、こつこつコースはじっくりコースに近い指導が良い、チャレンジコースは、発表の仕方に工夫が必要など)を話し合うことができた。習熟度別少人数授業に関する児童の抵抗感は、ほとんどなかった。指導法については、事前に少人数授業通信によって目標を児童に公表し、目標に向かって学習を進めるスタイルが定着してきた。年間指導計画、単元指導計画の作成により、教師間の共通理解を図ることができた。1・2年算数科のチームティーチングについては、柔軟に指導形態を替え、効果的な指導ができた。

データによる分析結果は、次の通りである。

学習場面の適応性を調べると、比較的よい傾向がみられた。また、ある課題に達成し成功した場合には自尊感情の高まりが見られるが、次も同じように成功すると期待できる児童が少ないという結果が出ている。この結果に対する具体的な手立てとして、小さな成功経験を積み重ね、自分の能力を自覚していくことが大切である。

また、学習到達目標を達成したかどうかを調べると、比較的よい傾向がみられた。しかし「数学的な考え方」において、努力を要する学年が見られる。この結果については、真摯に受け止め、努力目標としたい。

(4)豊かな感性を育てる教科の充実、(5)生活指導や道徳の充実については、研究についてそれぞれの考えを出しあい、共通理解をした。

【二学期】

二学期は、さらに学習指導法について具体的な話し合いができた。少人数授業について、各コースの具体的な特徴が見えてきた。こつこつコースは、一学期はじっくりコースとチャレンジコースの中間の位置付けをしていたが、理解力に関してはじっくりコースの児童と同じと位置付けた。この考え方で指導した方が授業内容の定着が良かった。指導法については、事前に少人数授業通信によって目標を児童に公表し、目標に向かって学習を進めるスタイルがより定着してきた。授業のふりかえりカードで毎時間自分自身をチェックすることにより、授業に向き合う姿勢が良くなった。単元指導計画の作成に関しては、知識・理解にやや重きをおいた計画を立てることによって、具体的に内容を話し合うことができた。

河井小学校オリジナルプリントを作成し、朝自習や授業に活用している。内容は、次の通りである。

作成したプリント(平成16年1月現在)

	整数	小数	分数
かけ算	37枚	7枚	16枚
わり算	64枚	30枚	25枚
倍とかけ算わり算	38枚		

1・2年算数科のチームティーチングについては、一学期同様柔軟に指導形態を替え、効果的な指導ができた。

データによる分析結果は、次の通りである。

基礎学力調査（6年生・5月1日実施）において、算数科で児童全体の正答率 50%以下の項目は、27問中5問で 18.5%にあたる。5問の内容を見ると、4年生段階での項目が3項目、5年生段階の項目が2項目である。これらの項目を重点的に指導していきたい。

少人数授業に関するアンケートについては、一学期に比べて、各学年ともポイントにあまり変化がなく安定していた。この数字を維持していくことが、これからの課題である。

ただ、5年生の内容に関しては、小数の乗除算がでてきたので、学習が難しくなってきた。5年生の二学期が算数学習の一つの山場であり、その中で特に「倍」の考え方が今後6年生の一学期まで続くので、継続してみたい。

(1)児童の実態に即した教材の開発(2)学習意欲を高め、学ぶ喜びや達成感を得る取り組み(4)豊かな感性を育てる教科の充実、(5)生活指導や道徳の充実については、実践レポートが出揃った。これらを参考にさらに3学期の実践に活かしていきたい。

2. 今後の課題

来年度は、研究内容の「 「わかる授業」の工夫」「 学習指導法の工夫改善」「 豊かな感性を育てる教科の充実」「 生活指導や道徳の充実」「 研究の成果や課題の普及に積極的に努める」について、よりいっそう研究を深めていきたい。

特に「 学習指導法の工夫改善」については、2年間の実績を踏まえ、個に応じたきめ細かな学習指導の工夫をしていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

学習到達目標を達成したかどうかと、学習場面の適応性を調べる

1学期はじめと3学期末に、学習到達目標を達成したかどうかと学習場面の適応性を調べ、その変容を評価する。

全校テストの実施

夏休みや冬休みなどの長期の休みに既習の計算と漢字についての課題を出し、休み明けに課題に沿った問題の全校テストを実施している。全校テストという目的があるため、真剣に課題の計算や漢字練習に取り組むようになった。合格点に達した児童には、合格賞が出され、学習の励みになっている。

授業ふりかえりカードによる自己評価の実施

授業中の学習に向き合う心構えについて、明確な目標を設定することによって、授業に長時間集中できる児童が増えた。

(授業ふりかえりカード例)

授業をふりかえって(4年生)

4年 組 番 コース

名前

単元と単元の目標

単元	およその数で表そう(学習時間数 6時間)
目標	がい数の見方や作り方を学んでいきます。 (1) がい数の意味を理解し、便利さに気づくことができる。 (2) 四捨五入、切り捨て、切り上げの意味を知り、実際にできる。 (3) 四捨五入してがい数にする表現方法がわかる。 の位までのがい数にしましょう。 の位で四捨五入しましょう。 約何万人ですか。 上から けたのがい数にしましょう。 (4) 目的にあったがい数を作り、グラフにすることができる。

	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()	/ ()
課題について考えることができたか。					
友達の考えを聴き、反応することができたか。					
自分の考えを発表することができたか。					
課題についてまとめることができたか。					

よくできた場合は、できた場合は、もう少しの場合は をつけましょう。

少人数授業通信での単元別評価の実施

学期ごとの通信簿での評価項目は「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「表現・処理」「知識・理解」なので、少人数授業通信での単元別評価を個人個人に実施している。

下記の通信は、二学期末に6年生に配布したものである。通信の下の方に、個人名と単元別評価を書いた。

星とたんぽぽ

はやいもので、来週で二学期が終わります。もう少しで、冬休みです。

二学期は、主に「分数のかけ算・わり算」「比」「比例」の3つを学習しました。学んだことをふりかえりましょう。

分数のかけ算・わり算

a 分数のかけ算ができる。

かけ算の筆算ができる。

b 分数のわり算ができる。

分数のわり算を分数のかけ算に直し、計算ができる。

わり算の筆算ができる。

c 約分(簡単な分数に直す)ができる。

約数・公約数・最大公約数を見つけることができる。

d 分数倍のかけ算わり算ができる。

もと1ものさしを使って計算できる。

倍の考え方ができる。

何をもとにするかをみつけることができる。

比

a 比の表し方がわかる。簡単な比に直すことができる。

b 比の性質を利用して、問題を解くことができる。

比例

a 比例のきまり「一方の量()の値が2倍、3倍、・・・になると、それともなってもう一方の量()の値も2倍、3倍、・・・になる時、 は に比例する」がわかる。

b 比例の関係をグラフに表すことができる。

あなたの学習の様子は、次の通りです。

組 番	分数の かけ算わり算	比	比例	まとめ

は「よくがんばりました」、 は「がんばりました」、*は「もう少し練習しましょう」です。
いずれにしても冬休みに復習しておきましょう。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会の開催予定

日時 平成 16 年 10 月 8 日(金)

場所 輪島市立河井小学校

対象 輪島市立河井小学校児童

算数科 学年少人数授業 3 学級

算数科 学級内少人数授業 1 学級

輪島市立松陵中学校生徒

数学科 学級内少人数授業 1 学級

英語科 学級内少人数授業 1 学級

目的 学力向上フロンティアスクールの研究指定校としての成果及び課題について発表する。

研究成果普及のためのHPは作成済み。

フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動

- ・ 学校公開を実施し、少人数授業の実態を地域・保護者に公開し、理解を深めることに努めた。
- ・ 輪島市学校教育研究会の算数数学部会で少人数授業についての説明を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

[新規校・継続校]	1 5 年度からの新規校	・ 1 4 年度からの継続校		
[学校規模]	6 学級以下 ・ 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
[指導体制]	・ 少人数指導 一部教科担任制	・ T . T による指導 その他		
[研究教科]	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	・ 算数 図画工作	理科 家庭
[指導方法の工夫改善に関わる加配の有無]		・ 有	無	